

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ながまつ なみえ 長松 奈美江	p	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-150701-0	17名	

<b>I. 調査実習に関するコメント</b>	
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生は、調査の企画、仮説の構築、調査票の作成、サンプリング、調査の実施、データ入力、データ整備、分析、レポート執筆という、社会調査の実施に関わる全過程に参加した。特に、調査の実施とレポート執筆には、多くの時間と労力を割いた。社会調査データを収集する困難さを知ったとともに、今後、調査を実施していくうえでの基本的な知識と技術を身につけたと考えられる。</p>	
<b>II. 調査の企画・設計 (デザイン)</b>	
1. 調査のテーマ/領域：大学生のアルバイトと学生生活、就労意識	
2. 調査の内容/概要：大学生のアルバイトの実態と就労意識、学生生活について調査を行い、「働く」という視点から、大学生の生活を捉えた。	
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：母集団は、2015年9月24日時点で関西学院大学社会学部に在籍する3、4年次の学生。サンプリング方法は、3、4年生のゼミナールをランダムに選び、担当教員を通じて調査依頼するというものである。	
4. 主な調査項目：高校生の頃の成績、自主勉強時間、単位取得状況、GPA、学習態度、生活満足度、アルバイトの実態、将来の仕事に関する意識、就職活動の様子、など。	
<b>III. データ収集の方法と結果</b>	
5. データ収集（現地調査）の方法：調査方法は自記式である。調査票回収方法は、授業内で集合調査をしてその場で回収する場合と、後日回答してもらい、事務室前のポストに投函してもらうという2つの方法を採用した。	
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査期間は2015年9～10月、調査地は関西学院大学上ヶ原キャンパス、調査員は18名。	
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：有効回収標本数は228名（3年生154名、4年生74名）有効回収率は71.4%であった。回収率も良好で欠損値も少なく、良質なデータが収集できたと評価している。	
<b>IV. データ分析の方法と結果</b>	
8. データ分析/解釈の方法：記述統計、クロス表分析、分散分析、相関分析、重回帰分析	
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：アルバイトの労働条件に関して、賃金不払い、休憩時間がもらえないなど、不当な状況で働く学生は多数ではなかったが、「余分に働いても給与が支払われない」ということが「ある」と答えた学生は20%にのぼることがわかった。またアルバイトで授業を欠席することが「よくある」と答えた者ほどGPAが低くなるなど、アルバイトの状況が大学での勉学に影響を与えていることがわかった。	
10. 報告書刊行の予定と概要：なし	

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。